

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成 28 年度第 3 回大学情報システム研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成 28 年 12 月 24 日(土) 13：00 から 15：00 まで  
II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室  
III. 参加者：大野理事、岩井委員長、片岡委員、小川委員、藤本委員、森本アドバイザー  
朝日ネット、ニッセイコム  
事務局：井端事務局長、野本

#### IV. 検討事項

前回検討した「eポートフォリオシステム構築に伴う留意点の整理」について再整理するとともに、「eポートフォリオシステム利用上の留意点」について整理メモを中心に検討した。また、次回の検討項目「eポートフォリオシステムの導入事例と課題の紹介」についても意見交換した。以下に 3 点を報告する。

##### (1) eポートフォリオシステム構築に伴う留意点の再整理

検討資料として提示した整理メモ（図・表を含む）について検討した結果、基本的な内容について確認するとともに必要な箇所について修正することにした。

- ・ 学生や教員の利便性の向上を図るために、ログインを一元化し、ポータルサイトからポートフォリオの利用、授業アンケートの利用、時間割などの利用ができる仕組みを確認した。
- ・ ポートフォリオ画面の紹介には、「初年次教育用」「達成度振り返り用」「キャリア用」の画面切り替えが簡単にできることを確認した。
- ・ 「初年次教育用」の画面では、大学生活を計画的に過ごす習慣を身に付けるための「週間ポートフォリオ」の仕組みとして、ブログ形式による一週間の行動記録、自己点検・評価の記録、教員からのコメントを図として確認した。その際、一週間の行動記録のデータは、「キャリア用」サイトでも活用できるように自動移行させる必要があること及びブログ形式で行動を蓄積することにより、就職での自己PRに学生生活を振り返る拠り所として活用できることの記述を追加することにした。（この修正は委員長が担当）
- ・ 「達成度振り返り用」の画面では、「科目別達成度 eポートフォリオ」の中で、学修達成度を自己点検・評価する仕組みとして、Can-do リストを掲載して学生が点検できる仕組みを確認した。また、Can-do リストを作成する場合の指標や尺度の検討にあたっては、ディプロマポリシーとの関係性を重視し、その上で、点検・評価の結果を IR データとして活用できるよう自動集計して数値化・可視化することを追記することにした。（この修正は委員長が担当）。
- ・ 「キャリア用」の画面では、将来の夢、自分の強み・弱み、課外活動などの記録から卒業後の自分の姿を想像することができることから、学生に利用促進を働きかける必要がある。そのためには、授業利用の成績ポイント化の工夫や振り返りが社会人の資質向上に不可欠であることの重要性を通じて理解の促進することを追記することにした。（この修正は委員長が担当）。

##### (2) eポートフォリオシステム利用上の留意点の検討

当初は、「eポートフォリオシステムを運用管理する留意点」としていたが、例えばシステム管理などは次の導入事例で紹介することも考えられることから、タイトルを「eポートフォリオシステム利用上の留意点」に変更することにした。検討項目としては、「eポートフォリオの書き込みを学生に促す教職協働支援体制の構築」、「学修行動モニタリングのシステム

化」、「ポートフォリオ情報の管理」について概ね了解されたが、以下の点について意見があった。

- ・ 「ポートフォリオ情報の管理」として、個人情報取り扱いの学生への周知、学修指導に関わる閲覧権限の設定、データの暗号化や匿名化が必要になる。
- ・ 「学修行動モニタリングのシステム化」の中で、行動記録や学修達成度の内容を確認するために、教員及びファシリテータがワークシート上にコメントして学生にフィードバックすることが最も重要になることから、教員・ファシリテータの負担軽減策をとりあげる必要がある。

### (3) eポートフォリオシステムの導入事例と課題の紹介

「パッケージ利用」、「オープンソース利用」、「独自開発」のeポートフォリオシステムを導入している大学の活用事例の選定、システムの特長・課題について、検討の仕方を以下のよう  
に意見交換した。

- ・ 活用事例大学の選定については、「独自開発」として、文系は京都光華大学、理系は金沢工業大学、医系は昭和大学を紹介することにした。「パッケージ利用」は、Manaba をとりあげ、朝日ネットから大学を紹介することにした。「オープンソース利用」は、mahara や Salesforce をとりあげ、委員長が候補校を選定し、大学を紹介することにした。
- ・ システムの特長・課題については、以下のような意見があった。
  - ※ 「パッケージ利用」は、パッケージソフトの基本機能が中心となっている例が多いが、ポータル機能やシラバス機能などオプションとして大学が設定しているものもあるのでそれらも含めて紹介してはどうか。
  - ※ 「オープンソース利用」は、専門的な知識を必要とするため、大学での活用が広がらない悩みがある。
  - ※ 「独自開発」は、理念を持って設計・開発する必要があるが、一般的には理念が体系化されていないため、必要時点でのシステム開発に終始し、開発後に修正を加えて行くためコストが膨大となる課題がある。
- ・ eポートフォリオシステム導入時の課題としては、「パッケージ利用」、「オープンソース利用」、「独自開発」であっても、既存の教務システムとの連携が重要で、そのための開発費が膨大になるという課題がある。
- ・ 活用事例大学を紹介する視点として、「システムの現状（基本機能・概要）」「改善点」「費用（導入・運用管理）」「既存システムとの連携」「今後の拡張性・発展性（4,5年後の計画）」の面から整理してはどうか。

## V. 今後の検討の進め方について

次回は1月30日に開催し、「eポートフォリオシステムの導入事例と課題の紹介」について検討を開始することとしている。次回までに以下の役割分担を行うことを決定した。

- ・ 委員長には、上記の指摘事項の見直しと、eポートフォリオをマネジメントシステムとして捉え大学がどのような視点で活用してIRと連携しているかという筋書きを明確にした導入事例の前書き作成、オープンソース利用校の推薦をお願いした。
- ・ アドバイザの朝日ネット、ニッセイコム、富士通マーケティングには、ポートフォリオを導入に関する課題を作成することにした。
- ・ また、Manabaの基本機能・概要は朝日ネットが作成することにした。